



診療の合間、医師としての理念を話す濱畑鷹巣診療所所長↑

鷹巣診療所の濱畑所長が受賞

訪問医療に力を注ぐ。
医療功労賞として県が表彰

地域医療や福祉の向上に尽くした人を表彰する第41回医療功労賞(読売新聞社主催)を、長島町国民健康保険鷹巣診療所の濱畑弘記所長が受賞されました。

濱畑所長は、鹿児島大学を卒業後、県内外の病院に勤務し、平成13年に「長島で世話になった以上、いつかは帰って地域で医療をやりたい」と新人時代からの夢をかなえ、鷹巣診療所の所長に就任。診療所では1日100人を超える外来診療の傍ら、本島と離島の獅子島で、体の不自由な方や独居老人の患者など、約90人の訪問診療に力を注いでいることが評価されました。

濱畑所長は「医者として在宅看護と見守りは自分の理念。これからも力を注いでいきたい」と抱負を話しました。

県道47号葛輪瀬戸線の沿道に咲き誇る梅の花↓



100年上の歳月。30本の枝に花開く

上揚集落、田島登さん宅のしだれ梅

2月中旬、上揚集落の田島登さん宅の梅の花が満開を迎えました。

この梅は、鷹巣を走る県道47号葛輪瀬戸線の沿道に咲き誇り、大きな古木3本を含む総数15本からなる枝ぶりは約30本にもなります。樹齢は推定200年で、登さんの父親がこの枝ぶりを考えて接ぎ木して100年が経過。この時期は、道行く人やドライバーを癒しています。

田島さんは「今後も手入れを頑張り、現状の枝ぶりを維持したい」と意気込みを話しました。

完 熟赤土バレイショを賞味して

農業委員会が長島の特産品を贈呈

長島町農業委員会(山口正成会長)は2月18日、特産品の「赤土バレイショ」40キロを、特別養護老人ホーム「桃源郷」にプレゼントしました。

これは、会員20人が共同農園で育てたもので、長島の基幹作物を入所者に味わっていただくとの取り組み。山口会長は「たくさん食べて長生きして」とあいさつしました。入所する100歳の柳迫アキノさんは「ジャガイモ料理は何にしてもおいしい」と喜んでいました。

このほか、町学校給食センターにも地産地消を推進しようと提供され、学校で紹介されました。



プレゼントされた「赤土バレイショ」を喜ぶ入所者↑